

【様式 9】 中間評価シート

1. データヘルス計画における目標（アウトカム評価）

	項目	目標		ベースライン (H28)	実績値			評価※ (ベースラインとの比較)	最終 目標 値
		評価指標	目標値 (達成時期：R5)		H29	H30	R1		
目標	特定健康診査の実施と受診率向上	特定健康診査受診率	60%	40.6%	44.0%	47.7%	48.9%	A	60%
	特定保健指導の実施率の向上	特定保健指導実施率	50%以上	82.6%	75.9%	86.9%	77.4%	C	50%以上
	脳卒中、心疾患、糖尿病の重症化予防	特定健康診査受診者のうち生活習慣病等重症化予防対象者の医療機関受療率	50%	35.0%	28.8%	29.4%	51.0%	A	50%

※「ベースライン」と実績値を見比べて4段階で評価（A：改善している B：変わらない C：悪化している D：評価困難）

2. 個別保健事業の評価

事業名	目標		ベースライン (H28)	実績値			評価※1 (ベースラインとの比較)	今後の方向性※2	現状と課題	最終 目標値
	評価指標	目標値 (達成時期：R5)		H29	H30	R1				
特定健康診査	特定健康診査受診率	60%	40.6%	44.0%	47.7%	48.9%	A	a	経年的に全体的な受診率は向上しているが、カイ二乗検定した結果、上昇している。3か年度重点地区にアプローチした受診率向上対策を実施したが、その翌年度には重点地区の受診率の変化が認められなかった。R2年度は、これまでの未受診者対策に加え、健診受診歴ごと（①H29～R1 連続受診者、②不定期受診者、③H29年度からの2年連続未受診者）の受診率の向上を図る。	60%
特定保健指導	特定保健指導実施率	50%以上	82.6%	75.9%	86.9%	77.4%	C	a	実施率は上がり下がりはあるものの、カイ二乗検定した結果、低下している。実施率は最終目標を達成しているが、引き続き50%を超え70%を下回らないように努める。また、依然としてメタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合はほぼ横ばいとなっている。重症化しないように、生活習慣の改善を図るため、自身で健康管理ができるように、保健指導する側の資質の向上を図っていく必要がある。	50%以上
重症化予防対策	特定健康診査受診者のうち生活習慣病等重症化予防対象者の医療機関受療率 (医療機関受診者数/重症化予防対象者)	50%	35.0%	28.8%	29.4%	51.0%	A	a	医療機関への受診勧奨を実施し、受診結果連絡票の戻りを確認している。令和元年度からレセプト情報と合わせて受診状況を確認している。受診の確認をすると受診に結びついている場合が多いが、コントロール不良者、治療中断者がみられる。重症化予防の観点からすると、かかりつけ医のみならず、かかりつけ医から専門医に紹介するシステムができていくことが必要である。引き続き未受診者への受診勧奨と受診後のフォロー体制の構築が課題である。	50%
脳卒中・心疾患・糖尿病予防のための普及啓発	①高血圧予防改善教室参加者数 ②脳卒中予防講演会参加者数 ③糖尿病予防改善教室参加者数	①100人参加 ②70人参加 ③100人参加	①15人 ②52人 ③0人	①52人 ②62人 ③0人	①106人 ②67人 ③7人	①12人 ②86人 ③88人	C	a	アウトカム評価につながる実施内容の変更が必要。庁内の受診率向上委員会で協議が必要である。	高血圧予防100人 脳卒中予防70人 糖尿病予防100人
がん検診	被保険者の受診率について、今後調査することとし、平成31年度に受診率の目標値を設定	目標値を設定	—				D	a	依然として国の掲げる「受診率50%」はいずれの検診でも達成されていないため、受診勧奨の継続が必要。 アウトカム評価として指標を挙げるか庁内で協議したい。 がん検診対象年齢の精査(国の指針に基づくべきか、主として受診勧奨したい年代にすべきか等)をしていかなければならない。	受診率の目標値を設定

※1 「ベースライン」と実績値を見比べて4段階で評価（A：改善している B：変わらない C：悪化している D：評価困難）

※2 今後の事業の方向性を3段階で評価（a：継続 b：縮減 c：廃止・休止）